ブループラネット賞受賞者提言論文出版

当財団では，ブループラネット賞の20周年を迎えるにあたり，地球環境問題の解決への道筋がなかなか見出されない現状に対して歴代受賞者がどのような考えを持っていらっしゃるのかについて伺うプロジェクトを2010年頃から開始しました。非公式な対話と協議からスタートした結果が2012年に具体化し，“ブループラネット賞受賞者による地球環境の改善に向けた共同論文”の執筆の呼びかけに多くの受賞者から参加の賛同を得る事が出来ました。

その後，ロンドンの国際環境開発研究所（IIED）本部に受賞者有志が集い，熱のこもった議論を重ねて環境問題への提言をまとめた論文がこのほど完成しました。この論文は同年にナイロビで行われたUNEP管理理事会特別会合やロンドンで世界中の多くの気鋭の学者や関係者を集め開かれた環境関連学会の国際的統合会合であるPlanet Under Pressureにて発表され反響を呼びました。更にはRio+20やIUCNコングレスにおいても論文が紹介され，多くの注目を集めました。

今般，東大出版会よりEnvironment and Development Challenges; The Imperative to Actとして，また日本語訳も松下和夫京都大学名誉教授の監修にて『環境と開発への提言　知と活動の連携に向けて』のタイトルで出版される予定です。

本書の出版により，ブループラネット賞受賞者達の人類への真摯な提言をより多くの人々に届けることで，真の持続可能な世界の構築に向けて，将来の世代へ“かけがえのない自然”が大事に継承されることを願っています。

この共同論文については，下記のご案内ならびに当財団のホームページ［トップページ右側のバナー］をご参照ください。

>> 近刊予告 <<

『環境と開発への提言：知と活動の連携に向けて』
発行予定日：2015年3月上旬
定価：3,456円（本体3,200円＋税）

Environment and Development Challenges
The Imperative to Act
発行予定日：2015年3月下旬
定価：未定

◎お問い合わせ先◎
一般財団法人 東京大学出版会 販売部
TEL.03-6407-1069 ／ FAX.03-6407-1991

― 環境危機時計® オリジナルキャラクターコミック ―
ぐりんとウッドンの水の王国だいぼうけん１～８

環境危機時計®を通した環境意識の拡大を目指し，特に若い世代を主なターゲットとしたシリーズものの冊子を継続して刊行しています。ぐりんとウッドンの冒険の旅を読むことで，地球に起こっている環境問題がわかるようなストーリーになっています。当財団評議員の今井通子先生にもキャラクターとしてご登場いただいています。

コミックは，当財団ホームページからご覧いただけます。

コミック冊子をご希望の方は，お送りいたします。当財団ホームページ（http://www.af-info.or.jp）の**お申込みフォーム**からご応募ください。

助成研究便り

2013年度採択　環境研究プログラム

課題名：里山林の健康回復と生態系安定化のための生理学的研究
助成金受領者：神戸大学 大学院農学研究科 教授 黒田 慶子
（助成総額 600万円，助成期間 3年間）

ナラ枯れという樹木の病気をご存知でしょうか。近年，里山のナラ類，カシ類などドングリのなる木（ブナ科のブナ属を除く樹木）に集団的に発生しています。この病気は，カシノナガキクイムシという体長5mmほどの養菌性甲虫が生きている樹木の幹に穿孔し，病原菌がその孔道（甲虫の掘ったトンネル）の中で繁殖することで起こります。

生理学的測定対象木のアベマキが新たに穿孔され，枯死寸前となった状態（樹枝を剥して孔道の数をカウントしているところ）

感染木では過剰な防御反応が起きて木部樹液流が停止し，夏季に葉が赤くなって枯れるので，被害は遠くからでも目立ちます。日本の里山ではこの半世紀の間に薪炭材などを目的とした伝統的な伐採が行われなくなり，高齢の樹木が増えたことと被害増加には深い関係があることがわかっています。病気を運ぶカシノナガキクイムシは元々日本の里山生態系の一部なのですが，里山林の樹齢構成が変化したことによって，枯死被害とともに害虫としてクローズアップされたといえるでしょう。

本研究では，単にナラ枯れの防除という視点ではなくて，発病の促進要因や阻害要因を生理学的に明らかにした上で被害軽減を図ろうとしています。また，こうした研究を通じて，健康な森林を維持再生していく手法を地域に提案していこうと考えています。森林の維持管理は人々の生活形態にかかわる幅広い問題です。本研究では，自治体や森林所有者・住民と一緒に，解決に向けた取組みを，兵庫県篠山市で実践しています。

公益財団法人 旭硝子財団

〒102-0081　東京都千代田区四番町5-3　サイエンスプラザ２階
TEL（03）5275-0620　FAX（03）5275-0871

URL　http://www.af-info.or.jp
E-MAIL　post@af-info.or.jp

公益財団法人 旭硝子財団

2015年1月
第48号

af News

平成26年度（第23回）ブループラネット賞表彰式典並びに祝賀パーティー

平成26年度（第23回）ブループラネット賞の表彰式典が平成26年11月12日，パレスホテル東京において開催されました。本年度の受賞者は，米国のハーマン・デイリー教授と，米国のダニエル・H・ジャンゼン教授およびコスタリカ生物多様性研究所です。

デイリー教授は“定常状態の経済学”をサステイナビリティーの理念をもとに再定義し，エコロジー経済学の礎を築きました。自然を顧みず破壊する経済成長に偏重しがちな世界に警鐘を鳴らし大きな影響を与えてきました。ジャンゼン教授とコスタリカ生物多様性研究所は，社会と自然環境を調和・共存させ，持続可能な開発の諸政策を提言し，生物多様性の保全と環境教育を推進してきました。これらは，先進国，途上国を問わず世界の国々にとって貴重で学ぶ価値のあるロールモデルになっています。

表彰式典には秋篠宮同妃両殿下のご臨席を賜り，各国大使をはじめ，政官界，学界，経済界を代表する数多くのご来賓にお集まりいただきました。

田中鐵二理事長の主催者挨拶に引き続き，林良博選考委員長より各受賞者の紹介がなされ，その後，理事長より受賞者への贈賞が行われました。

秋篠宮殿下からお言葉を賜った後，安倍晋三内閣総理大臣のご祝辞が立岡恒良経済産業事務次官から披露されました。受賞者の国を代表して，ジェイソン・P・ハイランド在日米国大使館首席公使ならびにリリアン・ロドリゲス・ヒメネス在日コスタリカ大使館臨時代理大使がそれぞれご祝辞を述べられました。それぞれのご祝辞では，各受賞者の地球環境問題に対する熱意と業績が讃えられました。

式典に引き続いて行われた祝賀パーティーは，ご来賓の方々からの祝福で和やかな雰囲気に包まれました。デイリー教授とジャンゼン教授，ロドリゴ・ガメス・ロボ博士（コスタリカ生物多様性研究所代表）の周りにはたくさんの方々が集い，優れた業績を讃える言葉が述べられました。

ブループラネット賞表彰式典にてお言葉を述べられる秋篠宮殿下

田中理事長とハーマン・デイリー教授

中央：ダニエル・H・ジャンゼン教授
右：ロドリゴ・ガメス・ロボ博士

自然に学び，自然の恵みを育み，持続可能な社会へ。
人として科学者として範を示し，成すべき事を実践・実証した人々がいます。

受賞の辞とプロフィール

ハーマン・デイリー教授

今回，旭硝子財団からブループラネット賞という大きな賞をいただき，光栄に感じるとともに恐縮しております。旭硝子財団が，我々の地球を守りより良くする取り組みに向けて他者を励ましサポートすることは，まさしく寛容さと奉仕の模範といえます。誰かが寛容な扱いを受ければ，その人も他者を同様に扱おうと考えるようになります。そのような機会を与えて下さり，感謝します。さらに，尊敬する素晴らしい受賞者の方々の中に私を加えていただき感謝しています。

今回の受賞は私だけではなく，過剰成長や浪費による破壊からの地球の保護・保全を目指して多大な努力をしている数多くの友人や仲間にとって，とりわけ，国際エコロジー経済学会の仲間たちの励みになります。もし私が今回の受賞にふさわしいことを成し遂げたとするならば，それは最高の先生方と最高の生徒たちを，世代を越えてつなげる役割を果たした点にあると考えます。この賞によって，その絆がますます強くなることを切に望みます。

人間社会の科学的探究に関心を抱き，ライス大学で経済学を専攻。大学院では持続可能な経済の研究に専念した

1967 年博士号を取得しルイジアナ州立大学で教鞭を取る

ロバート・コスタンザ博士と「国際エコロジー経済学会」を創設，現在も活発な議論を展開している

1988 年，世界銀行のシニア・エコノミストに就任

エコロジー経済学の原点となった「ハーマン・デイリーの三原則」や「ハーマン・デイリーのピラミッド」を提示し経済成長は人類の幸せに繋がっているかを問い続けている

1994 年からはメリーランド大学公共政策研究学部の名誉教授として後進の育成に励んでいる

ダニエル・H・ジャンゼン教授とコスタリカ生物多様性研究所 (INBio)

世界の生物多様性の 2.6% を占めるグアナカステ保全地域（ACG）に住んでいる生物は，私を含め皆が，私と INBio のブループラネット賞受賞の報に喜び，栄誉を感じています。この栄誉はまさしく，何十億という動物とともに歩み，それぞれが自分の役割を果たしながら，人間を生み出した自然の一部分を守ってきた何千人ものホモサピエンス，すなわちコスタリカ国内外の人々へのものです。かつて旭硝子財団はその先見性から，人間が消費によって自らのすみかを変質させてしまう傾向からの脱却の試みを支援し始めました。これは素晴らしく，また英明な業績です。

私たちには，世界が生物学への知識を深める手助けができます。これまでに壊してしまった自然の中には，私たちの手助けでまだまだ修復可能なものがあります。しかし，生物の知識なしでは，自然は単なる緑色のおそろしい塊であり，全人類との平和的共存の望みはありません。私たち INBio とグアナカステ保全地域の人々の，人類との非破壊的パートナーシップに向けて野生地保全の扉を開けようとする何十年にもおよぶ努力を認めていただき幸せです。この自然世界をじかに理解することでのみ，社会はこれを家族，村，国家の中に受け入れることができます。

コスタリカの豊かな生物多様性を守る私たちの自主的な取り組みを認めていただき，この由緒あるブループラネット賞を頂くことは大変な名誉であり，その重要性を私たちは十分に理解しています。

この地球規模の環境問題への対策を追求され，過去にこの賞を受賞されている著名な専門家やリーダーの方々の中に加えていただき，しかも D・H・ジャンゼン教授との受賞ということで大変光栄に存じます。ジャンゼン教授は熱帯生態学および環境保全の世界的権威であり，INBio と互恵的に活動されてきました。

コスタリカ生物多様性研究所がその組織的取り組みで達成できたのは，コスタリカ政府からの後押し，多くの国にまたがる国際開発機関の支援，科学者集団の協力，そして生物多様性の価値に対する社会的認識向上という目的への INBio 協力者の弛まざる取り組みです。

ブループラネット賞の受賞は，人類と生物界との調和的関係をさらに追求するうえでの新たなインスピレーションとモチベーションの源になりました。

1965 年カリフォルニア大学で昆虫学の博士号を取得，現在はペンシルベニア大学で保全生物学を教えている

1989 年 INBio 創設，教授夫妻も一翼を担っている

INBio は 300 万を超える標本を保有。その情報は DNA バーコーディングという手法でデータベース化，無料公開している

夫人のホールワックス博士と共同研究を続けており，1 年の半分はコスタリカのグアナカステ保全地域（ACG）で過ごし研究に専念している

夫妻は ACG の設立・生態系保全に尽力。修復・再生が進んだこの地域内の国立公園などが 1999 年にユネスコの世界遺産に登録された

遺伝子や生物化学分野の研究を通じて生物資源を経済的に利用することを目指し，企業や研究機関と提携を進めている

地域住民や子供の意識向上のためテーマパークを併設し自然に触れて学ぶ機会を提供している

贈賞理由

林 良博
選考委員長

ハーマン・デイリー教授

ハーマン・デイリー教授は，人間社会や経済の土台となる大切な自然を顧みない経済はいずれ破綻すると考え，持続可能な社会実現の為の新たな経済学の必要性を説いた重要な先駆者として著名です。教授は“定常状態の経済学”をベースとして自然・環境を取り入れたエコロジー経済学の礎を築かれ，さらには経済成長に偏重しがちな世界に警鐘を鳴らして来られました。教授は“経済成長は人類の幸せに繋がっているか”を問われ，今まで経済学分野で殆ど議論の無かった“生活の質，倫理性”といった新たな価値観をとりいれて，エコロジー経済学を進化させてこられました。また教授は，エコロジー経済学誌を共同創刊して活発な議論を促し，また国際エコロジー経済学会，世界銀行，大学教育を通じて多くの人々へ影響を与え，また多数の人材の輩出に尽力され，比類無き功績を残されてきました。

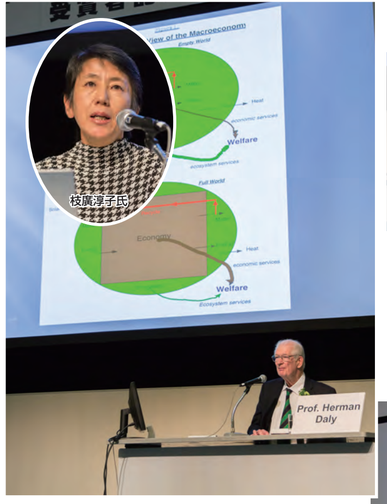
ダニエル・H・ジャンゼン教授とコスタリカ生物多様性研究所

ジャンゼン教授と共同研究者で奥様でもあるホールワックス博士，コスタリカ生物多様性研究所（INBio）は，協力し合いながらコスタリカの熱帯乾燥林や熱帯雨林の再生と生物多様性保全に世界的に傑出した素晴らしい成果をあげてこられました。ジャンゼン教授が導入・実証したＤＮＡバーコーディングや，INBio による３百万を超える生物標本の収集・同定，その情報の利用のためのツールの開発・活用の実績が広く認められ，熱帯の壊れやすい自然を再生・保全する持続可能な開発の世界的なモデルとなっています。さらに地域や社会に根付いた環境教育や，生物資源の中から有用な遺伝子資源を探し出し利用に供するバイオプロスペクティング等の国際的な商業協力にまで及ぶ幅広い活動は，今や世界の研究者や環境保全活動家のインスピレーションの源となっており，今後も一層の活躍が期待されています。

ブループラネット賞 受賞者記念講演会

11 月 13 日に東京・国際連合大学ウ・タント国際会議場において，受賞者の記念講演会が 200 名を超える方々が参加して開催されました。

第１部ではデイリー教授が『“自然を顧ることなく人と物に偏重する経済学”を考える』の演題で講演され，その後　幸せ経済社会研究所の枝廣淳子氏のコーディネートで，会場との質疑応答が行われました。



第２部ではコスタリカ生物多様性研究所代表のロドリゴ・ガメス・ロボ博士が『生物多様性の価値についての社会認識をいかに向上させるか：コスタリカ生物多様性研究所の実績』，そしてジャンゼン教授が『環境に優しい生物多様性の開発を通じた熱帯原生林の保全：コスタリカの事例』の演題で講演され，続いて，九州大学大学院　矢原徹一教授のコーディネートで，会場との質疑応答が行われました。

コーディネーターの巧みな対話と進行によって，会場の参加者からも多くの質問が寄せられ，中身の濃い活発な質疑応答が展開されました。受賞者の方々の業績に対する理解が深まると共に，私たちが地球環境問題解決に向け取り組むにあたっての行動の指針を学ぶ貴重な機会となり，充実した３時間となりました。なお，当日の配布資料および講演の模様は，当財団ホームページからご覧いただけます。